

1 自己評価及び外部評価結果(2ユニット共通)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770108013		
法人名	社会福祉法人そらび会		
事業所名	つるぎ荘やしもグループホーム		
所在地	大阪府堺市東区石原町3-150		
自己評価作成日	2019年 11月 5日	評価結果市町村受理日	2019年 12月 24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhw.go.jp/27/index.php?action=kouhou_detail_022_kami=true&jiyevsyoCd=2770108013-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人介護保険市民オンブズマン機構大阪
所在地	大阪市東成区中道3-2-34 JAM大阪2F
訪問調査日	2019年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の想いを引き出し、介護計画に重点プランとして位置付けた上で、利用者個人の能力に着目し、それが活用できるように手を出しすぎず言葉がけすることで自立支援を行う。 自己決定権や選択権を尊重した介護を心掛け、「～しましょう」ではなく「～しませんか」、「AとBどちらがよろしいですか」と言葉がけするように努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>堺市東区に特別養護老人ホームを展開する法人が平成17年、新たに同区内に設立したグループホームです。住宅街にある2階建ての建物は「つるぎ荘・やしも地域サポートセンター」としてデイサービスとケアプランセンターと地域包括センターを併設。地域の高齢者福祉の拠点になっており、地域に溶け込んでいます。ホームでは「なぜ?」を考えながら利用者に寄り添う介護」という理念の元、管理者をはじめ職員は利用者の尊厳保持や接遇の徹底に努めています。また、「職員元気で利用者元気」をスローガンに掲げ、職員がいそいそと働ける職場環境を整えることで利用者の笑顔や活力につなげています。ホームでは書道や塗り絵などさまざまなアクティビティが行われ、若い職員と目線を合わせて談笑する利用者の姿が見られます。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(2ユニット共通)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼毎に法人理念を出席者全員で唱和し、共有するように努めている。	法人の基本理念である「清く、正しく、明るく」のほか、ホーム独自に「なぜ?を考えながら利用者に寄り添う介護」という理念を掲げています。管理者と職員は理念の文言を覚えるだけでなく、会議や研修を通じて常に意味を掘り下げ、運営や介護に活かしています。	理念は事務所やホームページに掲示していますが、ホームの存在意義を深め利用者や家族、来訪者にもわかるよう玄関先に掲示してはいかかでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会役員さんに運営推進会議に出席してもらい、地域行事に誘ってもらったり、案内してもらっている。実際にふれあい喫茶をはじめ、行事のいくつかに参加している。	地域の自治会に加入し、自治会長を通じて地域の行事案内があります。利用者は祭りや小学校区で開催される「ふれあい喫茶」に参加しています。地域の小中学校や幼稚園と交流があり、毎年、中学生のギター演奏の訪問を受けています。また、毎年、地域で開催される「盆踊り」ではホームの職員がたこ焼きの店を出店し、売り上げを地域に寄付しています。広い庭園の草引きや畑仕事を手伝ってくれる地域のボランティアもいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の地域包括支援センターが積極的に認知症サポーター養成講座等を行っているため、グループホームとしての地域への働きかけは薄くなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当該会議において、行事予定やインシデント・アクシデント事例について報告しており、それぞれ意見を頂き改善策等に反映させることにしている。	2か月に1度ホームの管理者や職員と自治会役員、家族代表、基幹型地域包括支援センターの担当者の参加で運営推進会議を開催しています。会議ではホームの近況、行事予定、事故報告を議題に意見交換を行い、ホームの運営に活かしています。家族の高齢化等により参加者が減る中、家族会代表を輪番制にするなども検討しています。	成年後見人を付ける利用者が増えています。家族に代わり後見人に参加を依頼してはいかかでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政機関と交流、意見交換等の機会が殆どない。また、事業の運営状況等についてヒアリング等の機会もないため、市との連携について密とは言えない。	併設する東第一包括支援センターと連携を密にしています。基幹型包括支援センターの担当者とも連絡を取っています。東区・美原区のグループホーム会議にも参加し、各機関の担当者と交流して協力関係を築いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を年2回予定しており、内1回は実施済み。玄関の施錠については利用者の安全を担保するため施錠を基本としている。	「身体拘束廃止宣言」を掲げ、身体拘束に関する研修を年2回開催しています。管理者や職員はとりわけ利用者の尊厳保持に努めており、スピーチロックにも配慮しています。デイサービスや包括支援センターを併設する建物のエントランスは開錠していますが、出入りが多いことから、エントランスに通じるグループホームの玄関を施錠しています。利用者が玄関口に向かえば制止せず、意向に沿って職員が外出に同行します。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	8月20日に管理者が講師となり高齢者虐待をテーマに講義・GW形式で学習会を開催した。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は地域包括支援センターで7年余り勤務していたため、権利擁護に関する制度や事業について熟知している。下半期に権利擁護に関する研修を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は事務職員が個別に面談し、重要事項説明書を用いて懇切丁寧に説明。質問も受け付けている。料金改定の際は家族会等でも説明し、質疑応答形式で臨んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年3回開催し、要望や意見を伺う機会としており、それを行事や取り組み等に活かすように努めている。 敬老の日の贈呈品などを相談し、選定した。	利用者や家族の意見や要望は、日常の会話や家族の訪問時のほか、年3回開催する家族会や運営推進会議で聞き取っています。利用者の近況は法人が発行する会報や、ホーム独自の「やしも通信」のほか、担当者から家族等に送る個別の「便り」で写真も入れて知らせており、喜ばれています。家族の訪問が減る中、ホームでは個別の便りの送付を隔月から毎月に変更することを検討しています。	玄関先にアンケート形式の用紙を備え、意見箱を設置しています。さらに要望や意見が気軽に書けるよう、外出票や面接簿を活用し、簡単なコメント欄を設けてみてはいかかでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している部署会議や年3回の管理者との個別面談において、職員個人に意見や要望等を聞くようにしている。	管理者や職員間コミュニケーションは良好で風通しのいい職場環境です。職員の意見や要望は毎月のグループ会議のほか、年3回実施する管理者との個別面談で聞き取っています。職員の意見やアイデアが運営や実践に活かされた事例も多く、行事準備に費やす時間がないという職員の要望で勤務体制を見直した事例があります。面談の前にストレスチェックを行い、必要があればカウンセリングを行うなどストレスを溜めない環境を築いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と年3回個別面談を行い、合わせてストレスチェックも実施している。リーダー職員とは随時面談し、職場環境の改善や充実に向けて協議を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で知識や技術を養えるような研修を計画的に開催しており、必要に応じてリーダーがOJTで指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東区・美原区GH交流会が隔月ごとに設定されており、可能な限り参加するようにしている。各事業所が課題を持ち寄り、参加者全員で改善策を検討、共有している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には本人やキーパーソン・医療従事者等と面談し、入所前にアセスメントを行い、準備を行うことにしている。状況によっては、他サービスの提案も検討する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力や意欲に応じて家事の一部に参加してもらうなど、協働生活の環境作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を年3回開催し、要望や意見を伺う機会としており、新年会・遠足・納涼会・敬老会を年1回開催。家族にも参加案内し、共に本人をお祝い・交流することになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅近隣の方の面会を受け付けている。	ご近所仲間の来訪や、民生委員から様子伺いの電話がかかってくる場合があります。利用者の特技を活かし、アクティビティの際に先生になってもらったり、前職の仕事を話題にして活躍していた時代を大切にしています。また、来訪した家族が、入居後に顔見知りになった他の利用者を誘ってリビングで一緒に談話する場面がしばしば見られます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性が悪い利用者については、トラブルにならないように位置や距離、席などを配慮しながら孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度、関連施設に1名転所した。その後も家族の相談に継続的に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から想いを引き出すことが難しいケースなどには家族から生活歴を含め本人の趣味や嗜好などのヒアリングを行い、一緒に推察するように努めている。	利用者の思いや意向は、初回アセスメントのほか日常の関わりを通じて聞き取っています。職員が1対1で対応する入浴時は、利用者を知る絶好の機会と捉えています。また、収集した情報は「情報共有ノート」に記録し、職員間で共有して介護の実践や介護計画に活かしています。ホームでは入所後2カ月後くらいに、家族等に再アセスメントすることを検討しています。	職員が得た気づきや発見を最大限に活用するため、キャッチした情報は個別に整理し、上書きできるシステムにしていくことが期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	同上		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の観察の中で、各利用者の心身状態や残存能力の把握、また潜在能力を発見し、毎日の生活に活かせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当介護士がアセスメントし、課題を抽出することにより、重点プランを提起してもらうことにしている。	ケース会議では担当介護士が複数参加し、ケアの在り方や課題を出し合っって介護計画に反映しています。計画書は半年ごとにモニタリングして見直しています。 目標設定では「できないこと」に目を向けるのではなく「今、できること」に注目して作成しています。その結果、目標達成できるケースが増えています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	重点プランを中心に日々の取り組みを行い、その中で利用者の表情や結果を「情報共有ノート」に記載し、職員間で共有している。また、これらの情報を整理し、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	娘さんが定年退職し、同居が可能と考えられるケースにおいて、在宅復帰に向けた具体的なサービス提案等を行った。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加しており、また自治会行事に場所を提供するなどの協力も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望通り、自由に受診して頂いている。薬の調整が必要と思われる人については医師宛にサマリーを作成し、家族を通じて届けるようにしている。	入居前にかかっていた医療機関の受診が可能です。グループホームと提携している医療機関から2週間に1回の往診があります。緊急時や夜間でも相談できる体制になっています。受診結果や健康状態について変化があった場合は、速やかに家族に報告しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態の変化等について、看護師に相談する際に問診票を作成し、看護師の見立てや指示内容について職員間で共有できるようにシートを活用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院時連携シートを活用し、医療機関側に情報提供しており、退院時にはサマリー等を作成してもらい情報共有するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特に身体的介護の重度化に対しては予め家族等に対して介護の現状と予後について説明と報告を行い、どこに生活の場を置くかについて相談することになっている。	重度化した時の対応については入居時に説明しています。法人が運営する特養では看取りを行っているため、そちらを希望する家族がほとんどですが、今後「ホームで最期を」と希望する利用者・家族があれば、対応していく予定です。	法人が運営する特養では終末期の研修にも力を入れていますが、ホームも合流してはいかかでしょうか。また、法人として今後、インターネットを使った研修や会議の導入を検討中です。新しいシステムを活用したホーム独自の終末期の取り組みに期待がかかります。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業計画書に左記の状況に関する対応方法がチャートで記載されており、6月に内部研修で緊急時の対応について取り上げた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を年5回、震災想定訓練を年1回企画し、実施している。地域が主催する消防訓練にも参加している。(職員のみ)	災害マニュアルはありますが、台風時の対応について見直しをする予定です。2カ月に1回、避難訓練をしています。近日中に地震訓練をする予定です。消防署立会いのもと、年2回、避難訓練と水消火器を使って消火訓練を行っています。非常口はリビングの掃き出し窓になっているため、そこから庭に避難することができます。備蓄については、水やアルファ米や乾パン等を準備しています。カセットコンロで発電できる発電機を購入する予定です。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語を基本とするが、タメ口で声かけしてしまうことも日常的にあり、尊厳保持を徹底出来ていないのが現状。プライバシーに関しては問題はないと考える。	尊厳については何度も研修を行っています。「尊厳の保持」を年度目標として、ため口で声掛けしないように気を付けています。職員は、利用者の耳元で優しく敬語で声掛けをし、プライバシーや誇りを損ねない対応に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の介助中など1対1でゆっくりと話ができる機会を大事にしており、普段の生活を本人がどう評価しているか等について伺い、援助に反映するように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の勤務状況等により全ての希望に合わせることは難しいが、可能な限り生活リズムやペースに合わせて介助や機会を設定している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類については可能な限り本人に選んで頂くように声掛けしている。可能な方には髪を整えて頂いたり、化粧をしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	心身機能上、対応可能な利用者についてはケアプランに位置づけした上で食事準備や片付け等の作業をお願いしている。	平日は併設するデイサービスの厨房から運ばれてくる食事を、利用者と職員で盛り付けをしています。食後はかたづけやお盆拭きなど利用者のできるところは手伝ってもらっています。食事時はテーブルにクロスを掛け、テレビを消して音楽を流すなど優雅な雰囲気の中で食事に集中できるようにしています。日曜日の食事はホームで職員が手作りするほか、お楽しみ会では利用者と一緒にホットケーキを焼いたり、誕生日にはケーキを作ったりしています。庭の畑で採れたサツマイモを使ってスイートポテトにすることもあります。月に1回、出前食の日があり利用者は楽しみにしています。年に2回、実施している「目料理」では、揚げたての天ぷらやざるうどんを楽しみます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分の摂取量が少ない利用者については表を用いて管理し、一定量以上摂取できるように努めている。また、本人の嗜好に合った飲料や食べ物を個別に用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科診療により、歯科医師や衛生師から指導を受け、毎食後に口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握し、定時に誘導していることであるべくトイレで排泄できるように支援している。ただし、無理な誘導は行わず、出来るだけ本人の意思を尊重した排泄介助に努めている。	各居室にトイレがあり、プライバシーが守られ、利用者が安心して排泄できる環境です。排泄記録を活用しながら、個人に合わせてトイレ誘導をしています。リハビリパンツを使用していた利用者が布パンツとパッドの利用になった事例もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄管理表を用いて個々の排便リズムを把握し、必要に応じて医師が処方した内服薬を服用して頂くなどの対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴管理表を用いて決まった時間の範囲内での入浴を基本とするが、その範囲内で本人の希望を考慮するようにしている。	利用者は週に2回入浴しています。ペーパーソープや好みのシャンプーを使う利用者もいます。入浴を好まない利用者には、仲の良い利用者を一緒に誘ったり、時間を変えて声掛けしたりするなど対応を工夫しています。季節のしょうぶ湯やゆず湯を楽しんでいます。同性介助にも対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常に本人の様子やコンディションにより適宜休んで頂くなどの対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬についての説明書類について閲覧できるようにしており、内容が変更になった際は申し送りにより情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や散歩など個別的な嗜好に合わせて楽しみごとの機会を設定するように心がけているが、職員の都合の調整がうまくいわずになかなか実行できていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援に関して、地域住民の協力を得ることは出来ておらず、外出機会は少ない状況。	1月は初詣、春の遠足ではニフレルへ、秋の遠足ではさかい利休の杜や大仙公園へ。アジサイの花を見にドライブしたり、月に1回はフードコートへ外食に出かけたりしています。近くでは自治会のふれあい喫茶、区民祭り、地域の盆踊り、収穫祭等へも出かけています。日常では毎朝、新聞を取りに行ったり、駐車場を外気浴をしたり、外へ出ることが利用者の楽しみとなるよう支援しています。家族と一緒に食事や法事や通院で外出する利用者もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望する物品については家族に調達してもらうか、職員が家族の同意を得て代理で購入するなどしている。外出した際は施設側で建替え払いすることを基本としているので、利用者が現金を扱う機会はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の状況について2ヵ月ごとに家族宛に担当職員が作成した画像入りの文書を送付している他、利用者から家族へ年賀状を送る取り組みを行っている。利用者・家族とも電話や手紙のやり取りを希望する声があれば随時支援する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を意識して壁画などを作成し、掲示することを心掛けている。整理整頓を密にし、室温や湿度等もチェックしながら調整することで快適性および健康状態の維持を追求している。	大きなガラス窓が並びリビングは明るく、ソファでゆっくりとくつろぎながら大画面のテレビを見たり、庭の景色を眺めたりできるようになっています。温湿度計があり、常に加湿器を使って空気の乾燥を防ぎ、居心地よい共用空間になるように気をつけています。昼食後、利用者は職員手作りの足台に足を乗せてゆったりとくつろいでいます。壁面には、利用者と一緒に製作した季節感のある壁画をはじめ、利用者の習字や絵画作品、行事や外出時の写真を飾り、思い出を楽しんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数でのコミュニケーションについては、基本的にフロアに隣接している和室で寛いでもらうようにしている。また、ソファを設置することで居場所の選択肢を増やし、本人が希望する場所で過ごして頂けるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、本人が使い慣れた家具などを持ち込んで頂くようにしており、可能な限り環境変化を少なくできるように家族と協力している。	居室入口には、職員が手作りした利用者の名前の入ったのれんがかけられています。居室には洗面台、トイレ、エアコン、ベッドがあり、利用者は使い慣れた神棚、仏壇、タンス、収納庫、テーブル、椅子、カレンダー、時計、写真、ぬいぐるみ等を持ち込んでいます。どの居室も整理整頓され、きれいに掃除されています。温湿度計もあり、快適に過ごせるようになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分かりやすいように姓を大きく掲示し、段差は一切ない環境である。もう少し支持物があればさらに自立性や安全性が高められると考えており、近く手すりの増設工事を検討している。		